

県士会ニュース



Kanagawa Association of Occupational Therapists —KAOT—

Contents

TOPIC

スポットライト～OTの生き方～.....5
 ヨコハマ・ヒューマンテクノランド2017参加報告.....6
 いま、精神障がい者スポーツが熱い！ in かながわ.....10

巻頭言.....	1	求人案内.....	11
連載 生活行為向上マネジメント.....	2	研修会案内.....	11
理事会報告.....	3	事務局からお願い.....	12
学術誌投稿体験コラム.....	4	お詫び文.....	12
連載コラム ちょっと一杯どうですか？.....	7	編集後記.....	12
各部からの報告.....	8		

巻頭言

作業療法士がより活躍する環境を 一緒につくっていきませんか



事務局長 金山 桂

平成29年5月14日に一般社団法人神奈川県作業療法士会の総会が行われました。新体制となり、事務局長となりました 金山桂です。事務局の手伝いを始めて8年になります。その当時1400名程度だった会員数は2000名を超えました。この間、当会は代議員制となり総会は社員総会に変わりました。また、作業療法士が求められる領域が増え、部・委員会の変遷も行いました。作業療法士が働く環境の維持・発展のために、作業療法士協会とも連携・協力をしています。県士会の運営において変化はありましたが、会員の皆さまにとってより意味のある県士会になるよう活動している姿は変わりません。

その中で、事務局は表立って何かをするわけではありませんが、部・委員会と協力して皆さんに必要な情報をお伝えしたり、皆さんからの問い合わせ先として質問・相談に対応したりと、皆さんと県士会を結ぶ架け橋のようになれればと考えています。

例えば、研修会のお知らせが事務局に来ることがあります。これはウェブサイト管理委員会が管理するHPを使って皆さんへお知らせしています。教育部や学術部が開催する研修会の受付や、制度対策部の自動車運転や特別支援教育に関するアンケートの

受付先として部と皆さまをつないでいます。また、今後は市町村や事業者さんからの問い合わせ先になることも予測されます。地域包括ケアシステムが始まったからです。

地域包括ケアシステムは住まいを軸としたとき、徒歩30分圏内で医療、介護、生活支援・介護予防という必要なサービスを提供するという考え方で、横浜市の場合、すでに元気づくりステーションという自主的な活動グループへリハビリテーション専門職が派遣されています。今後このシステムは高齢領域だけでなく、障害領域へも発展していくといわれています。地域包括ケアシステム推進委員会や地域リハビリテーション部と連携し、やりたいと希望された会員の皆さんの紹介につながっていければと思います。

また、事務局の大きな仕事のひとつとして社員総会があります。今年度は社員総会の場で会員の皆さんが県士会へ直接意見をいえる代議員を選ぶ年です。ぜひ多くの皆さんに立候補いただき、県士会の活動を発展させていくご協力をいただければと思います。



生活行為向上マネジメント

生活行為向上マネジメントの事例登録について

会員諸氏におかれましては生活行為向上マネジメントの普及推進にご協力いただき御礼申し上げます。

このたび日本作業療法士協会から「事例報告書作成の手引き（生活行為向上マネジメント）」「生活行為の自立を目指して」（第2.0版）（図1）が公表されましたのでお知らせいたします。

この手引きは、マネジメントとは何か、MTDLPを始める前に、MTDLPの実際、各シートの記入方法、事例執筆から登録までの手順、チェックリストについて記載されています。

生活行為向上マネジメントを始める前に是非ともこの手引きをご参照ください。

現在、事例の審査を実施している中で、一般事例に適している報告が混在していると報告を受けております。

一般事例と生活行為向上マネジメント（以下MTDLP）事

例の報告の違いを図式化したものが図2、図3となります。

一般事例の報告の場合は以下の特徴があります。

- 1) 実践が作業療法に限定的である
- 2) 1事業所（病院、施設）に限局している
- 3) 介入した結果までの報告で、予後の見通しが不明なことがある。

またMTDLP事例の報告には以下の特徴があります。

- 1) チームでのアプローチである
- 2) 1事業所（病院、施設）に留まらず、複数の事業所が関与している
- 3) 作業が拡がり、資源の活用につないでいく視点がある

どちらも素晴らしい作業療法の実践ではありますので、事例登録の際の選択にご注意いただければと思います。

（文責：生活行為向上マネジメント推進委員会 木村）

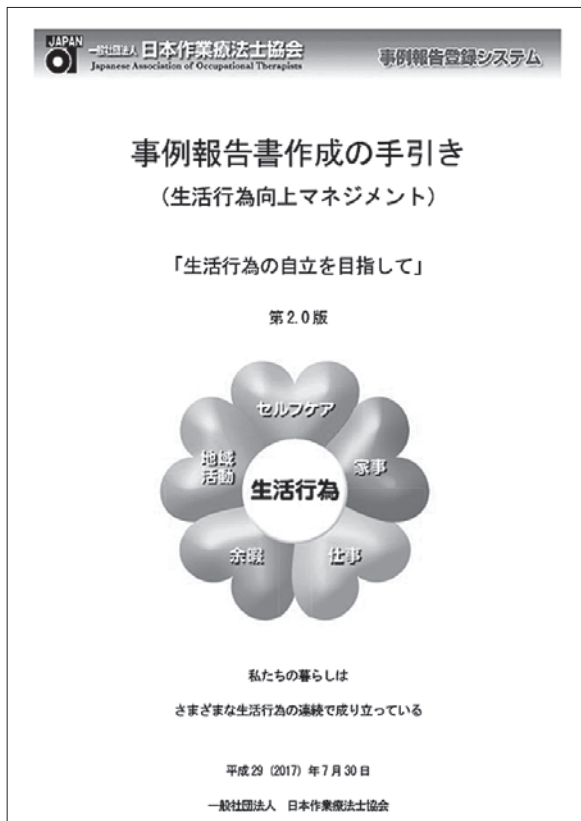


図1 事例報告書作成の手引き（生活行為向上マネジメント）

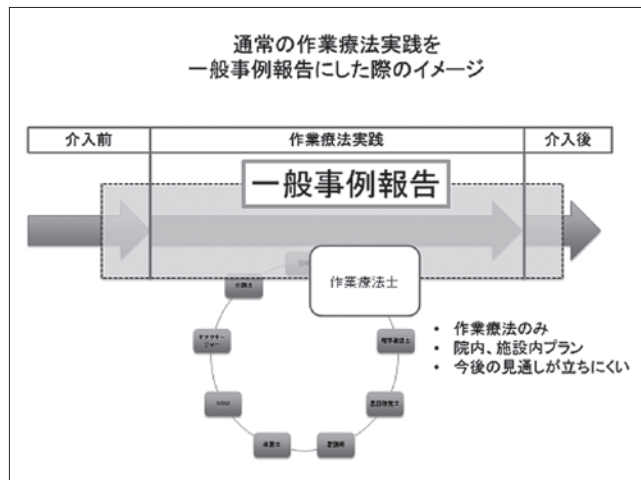


図2

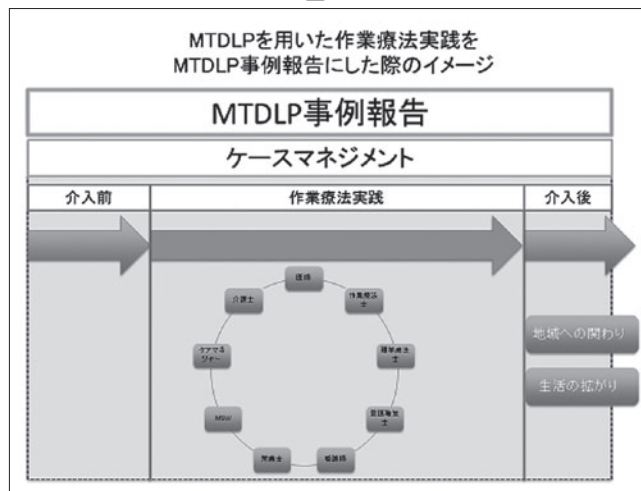


図3

理事会報告

★平成29年(2017年)度第2回理事会議事録

- I. 日 時**：平成29年6月8日(木) 19:10~21:54
- II. 場 所**：神奈川県作業療法士会事務所
- III. 出席理事**：錠内、野々垣、木村、金山、吉本、佐々木、奥原、神保、玖島、遠藤、作田、村越、澤口、佐藤、大郷 計15名
- 欠席理事：野本、名古屋
出席監事：田中、糊沢
その他：出口(広報部班長)、山口、宮沢(書記)
- IV. 今年度の三役会・理事会について**
報告事項に関する時間が多く、理事同士の議論が出来ていない状況。そのため、審議事項を決め、ポイントを絞り審議していきたい。限りある会議時間の中で、どこを優先的に議論するのかを三役会で整理し、理事会へ提案していく。
- V. 部員の承認** ⇒全員承認
- 1. 事務局**
事務局次長：福留大輔
魚岸実弦・山口悠里・平山康一・横山早紀・池田公平・宮沢優・大郷郁美・明立早香・岩切七彦・森田千秋
- 事務局専従：高橋真喜子・鎌田快予・松村啓子・武内千秋
- 2. 財務部**
西村彰紀
- 3. 学術部**
会計担当：林慎也
スキルアップ研修：田中秀和・重田明日香・梶原真樹・井上那築・佐藤慶一・川端遼磨・渡部喬之・峯山瞳・西前英紀・川口敬之・斎藤梢・江川純香
- 学術誌担当：編集委員長：白濱勲二
秋本浩・内山博之・川口敬之・窪田聡・坂本安令・坂本俊夫・坂本豊美・澤口勇・篠崎雅江・須鎌康介・高橋香代子・高橋博美・机里恵・早川裕子・林純子・福留大輔・藤本幹・渡邊誠
- 研究助成担当：石川哲也・佐々木祥太郎・佐々木洋子・宮崎道輝・渡部喬之
- オブザーバー：福留大輔
- 4. 教育部**
本藤広美・福田舞・大場文・石井有希・金子康・藤原康子・木村亮太・荒井裕大・関口直也・奥田奈津子・高林剛・金木貴芳・磯貝優花・川本ひかり・山本真理子・西尾香苗
- 5. 広報部**
ニュース班：出口弦舞(班長)・山岡洸・安田優子・丸岡ちひろ・佐藤愛・井部賢吾・松井洋鷹
- 対外広報班：酒井由香里(班長・県央地区企画長兼任)・水野友和(横浜地区企画長)・佐藤隼(相模原地区企画長)・久保田友佳(会計)・有田健吾(会計補佐)・増田理恵・原萌夏・福島ひとみ・丸井智子・天野沙織・松本佳代子・額谷文太・平田康太郎・荻野耕一・竹村祐樹・大道伊奈子・花形真
- 全体会計：山本潤
- 6. 福利部**
池嶋孝二・岩切美帆子・荻野祥代・加世田翼・勝山基史・須

崎可奈子・田中達也・畠中佳代子・松岡 太一

7. 地域リハ部

会計担当：金沢隆之、早川大貴

研修担当：原島淳・青木紀恵・西浦淳一郎・佐藤範明・浅黄真紀子・山田祐衣・足立恵美・小椋瑛里・中川智美・札野優・渋谷拓郎・森木勇一郎・高森麻貴・湯澤大輔・井上亜紀子・佐藤麻裕子・坂内大祐・一木愛子

普及担当：岩崎竜弥・山崎純一・佐藤茉莉耶・佐藤隼・木下剛

8. 制度対策部

福祉用具班：沼田一恵(班長)・金原衣理子(会計)・木村亮介

研修会(明日から使える環境スキル)：中村元樹・山崎あゆみ・加藤結花里・高吉亮平

相談支援支援システム(モデル事業)&情報発信(ブログ)：田畑雄吉・石渡大地・宮田和典・近藤由希子・長田美奈子

社会保障制度対策事業班：山根剛(班長)・西則彦(自動車運転とOT担当)・前田智恵子(特別支援教育とOT担当)・外池美幸・岸貴雅・奥村容子

9. 規約委員会

杉田雄大

10. ウェブサイト管理委員会

福嶋祐子・甲本夏穂・佐藤範明・浅井翔伍

11. 学会評議委員会

内山博之

12. 生活行為向上マネジメント推進委員会

渡邊隼人・木村勉・三宅純平

13. 認知症対策委員会

杉本尚久・新山祐貴・小室容子・片切深央・椎野光優・小澤隆

14. 地域包括システム推進部

木下剛・片岡直人・中井琢哉・吉田倫子・川上新・山口由花・佐藤佳央里

VI. 報告事項

1. 事務局

1) 協会員=士会員の周知について 今年度かけてニュース、ウェブにて周知していく。

2. 地域リハ部

(1) 研修会について

1) 職種精神保健福祉セミナー 日程：平成29年11月25日(土) 予定

2) 地域ネットワークミーティング 日程：平成29年9月10日 予定

3. 制度対策部

1) 福祉用具に関する会員向け研修会「明日から使える環境調整スキル」日程：平成29年9月2日、11月5日、12月2日

2) 福祉用具に関する情報提供、相談支援

①生活行為工夫情報モデル事業；①事例投稿を全会員より募集②本事業の活用を他事業と検討していく。

3) 災害時安否確認システムについて 9月号のニュース発送後1週間でも実施。意見を募り、11月から本格始動を目指す。

4. 認知症対策委員会

1) 認知症をにんちしょう会@ハルネ小田原 平成29年10月1日開催予定

以上(文責：宮沢・山口・金山)

学術誌投稿体験コラム

前号にて学術誌への投稿についてご紹介しましたが、今号では過去の投稿者の方に投稿体験記のコラムを書いていただきました。

掲載された実践報告は「理髪動作を「XYZ 連記法」で分析し、課題指向型トレーニングを行い理髪動作の再獲得が可能となった事例」2017.vol.7, no.1 です。 ～編集委員長～

●コラム担当

「なんとなく OT からすっきり OT へ」

医療法人社団三喜会 鶴巻温泉病院
作業療法士 川瀬 理恵さん

今回、神奈川作業療法研究雑誌の編集委員会より、コラムのお話を頂きました。論文投稿のきっかけや投稿したことで学びなどについて書かせて頂きます。

2年目の時、私は脳卒中後に理容師としての復職を希望される患者様の担当となりました。しかし、よいアプローチ方法が見つからず悩んでいました。上司に相談したところ、複雑な手の動きを評価することができる「XYZ 連記法」を紹介されました。「XYZ 連記法」を使用した結果、理容師としての復職が可能となったため、当院の症例検討会や神奈川県士会の事例報告で発表しました。その後、上司からの勧めで3年目の時に「神奈川作業療法研究雑誌」に投稿することを決めました。

論文を作成して、一番強く感じたことは臨床での思考回路が“すっきり”したことです。論文を作成する前は、「患者様が望むから“なんとなく”やってみよう」「“なんとなく”リハビリをしていたら、知らない間に回復している」など“なんとなく”リハビリを提供し

ていた気がします。論文投稿を通して、改めて作業療法士は患者が望む作業活動の獲得に向け、状態像の評価、治療を行い、その獲得を支援することができる専門職であることを実感しました。

また、私たちが行っている作業療法は先代の作業療法士の方々の研究の上に成り立っていることを実感しました。今回「XYZ 連記法」との出会いがなかったら、理容師としての復職を支援することはできませんでした。論文完成後、「XYZ 連記法」の開発者である鎌倉矩子先生に論文を送ったところ、後日先生からお手紙を頂きました。そこには、「その昔、私は手のかたち・動きの研究に10年を費やしましたが、その結果（成果）を、こんな風に使っていただきたかったのです」と書かれていました。

鎌倉矩子先生は、著書『作業療法の世界』の中で「作業療法の実践技術を進化させる途は、臨床現場の観察や試行を重ねて特定の技術の提案に至る途である」と述べています。先代から引き継いだ作業療法の実践を進化させていくためには、私たちのような若い世代ががんばっていかねばならないのだと思います。私も微力ながら今後も努力していきたいと思います。

スポットライト ～OTの生き方～

就労継続支援 B 型立ち上げ 編

今回は、精神科病院での勤務経験を生かして、就労を望む方の次のステージへの架け橋になれるようにという思いから、就労継続支援 B 型事業所を立ち上げた OT さんにスポットを当てます。立ち上げに至るまでの想いや、事業所での取り組みについて綴っていただきました。

特定非営利活動法人 COLORS 就労継続支援B型 NEXT STAGE 加藤 祐さん

『病院から地域へ』そんな言葉を掲げ平成26年に厚生労働省が精神障害者の地域移行に関する具体的方策を打ち出した翌年、その言葉に感化されたわけではないと思いますが、私は病院を出て地域で精神障害のある方の就労を支援する事業所を立ち上げました。

〈開所の経緯〉

私は以前精神科病院にて院内の作業療法士として勤務していました。その間多くの退院を目にし、病状の悪い時期を経て体調がよくなり退院していく姿や、退院支援の末に退院していく姿を見ることはとても嬉しく、その治療支援に携る事はとてもやりがいがありました。退院する患者さんの中にはその後一般の仕事に就きたいというneedを持っている方もおり、体調や作業能力の回復が十分でないためすぐに就労は難しくとも、一般就労の可能性がありように見える方も多くいました。ある程度病状が回復してきたら早期に退院という精神医療の流れの中で、さらなる体調の安定や作業能力の回復を入院中に目指すには限界があるため、地域において体調を安定させながら就労への準備性を高める必要がありました。しかし、地域において就労を支える場としては、就労スキルを高めたり、企業実習を行う事業所がありますが体調が不安定な方には尚早なこともあり、また病状や生活の安定のために無理なく通所できる、地域活動支援センターやデイケアでは軽作業や手工芸などの作業内容が一見一般就労とは離れているような印象を与え敬遠されることがありました。その結果、どこの通所にも至らなかつたり、本人の一般就労へのモチベーションの低下を招くこともあり、退院は喜ばしいことでしたが、本人の希望である一般就労というものについては見通しが不透明になることがあり、それに何とも言えない不全感を覚えました。そのような経験から、就労への支援をしたいという想いが生まれ、精神障害のある方が地域において、一般就労に向けて体調を整えると共に作業能力を高め、仕事へのやりがいを感じながら通所できる場を作りたいと思い就労継続支援B型NEXT STAGEを立ち上げました。事業所名のNEXT STAGEは福祉就労から次のステー



ジへの準備や架け橋になるようにという想いからつけています。

〈NEXT STAGE支援内容〉

現在事業所には、20～50代までの30名の方が登録し、皆就労を目指し通所しています。

(作業内容)

- ①リハビリ用品の製造
- ②カッティングシール製造
- ③パソコン業務(DM・マニュアルの作成)
- ④領収書仕訳(外部会社からの委託業務)

作業内容は、リハビリ用品やカッティングシール関連の製品製造とそれに関連するパソコン業務、領収書の仕訳作業です。手作業からPC業務、事務作業など様々な業務を通して、集中したり考えたりする時間を持ち、他者と協力して行う業務の中で作業能力や対人技能が高められるよう支援しています。

(プログラム)

- ①生活講座(睡眠・食事・ストレス・排便)
- ②就労準備講座(履歴書職務経歴書の書き方・就労に関する社会資源の紹介と活用)
- ③余暇活動(スポーツ・散策・映画鑑賞)

体調の安定のために自身の生活を考える時間や就労に関する講座、体調の安定や体力向上の為のプログラムを提供しています。

〈おわりに〉

障害者の就労を取巻く現状として、法定雇用率は来年度さらに引き上げられ、総合支援法下での就労系事業所数は年々増加しています。障害者雇用は国の施策として進められ、労働人口増加への期待やノーマライゼーションの浸透が背景にあります。実際に就労を目指す方を前にすると、就労というものが個人においては時代の変化とは関係なく不変的で本質的な欲求であるように感じられます。体調や障害により、数年間働けずいたり離職就職を繰り返しながらも再び就労を目指す方など、個々の「仕事をしたい」という強い想いは収入や喜びだけではない人間の本質的な欲求として伝わってきます。私にとっても仕事は大切でその大切な仕事を支援したいという思いから事業所を立ち上げましたが、どこかその本質的な欲求が叶えられないことに大きな不全感を覚えていたようにも思います。就労への支援は、病状から能力、対人面やストレスマネジメント、就職活動など多岐に渡り、「仕事に就く」「仕事を続

ける」という結果を出すことはとても難しい支援だと感じています。まだ、就労への実績も少なく、支援のかたちも模索段階ですが、病院勤務経験者として体調をみながらリハビリの視点をもって支援を進めていきたいと思っています。

〈あしがき〉

今回は、就労支援の難しさを感じながらも、人間の本質的な欲求である「働くということ」を自ら事業所を立ち上げて支援されているOTさんにスポットを当てました。いかがだったでしょうか？

福利部では、皆さまからのご意見やご感想を募集しております。

県士会福利部〈fukuri@kana-ot.jp〉まで是非お寄せください。今後も特色ある取り組みをしているOTさんを特集していきたいと思っています。ご期待ください！

(文責：福利部 会員交流班 松岡太一)



ヨコハマ・ヒューマンテクノランド2017 参加報告

7月28・29日みなとみらいのパシフィコ横浜にて、ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド（通称ヨッテク）が開催され、県士会でブース出展をしました。ヨッテクは、横浜市リハビリテーション事業団が主催するリハビリテーション関連ブースや福祉機器等の展示会です。今年で16回目を迎えた今回は2日間で15,168人ももの来場者があったようで、そのせいか県士会ブースに訪れる方も例年よりも多かったように思いました。

県士会ブースでは、リハビリや生活で困っていることの相談を受けたり、作業活動の体験コーナー（紙のしおり作り）を設け、活動を通して「作業療法」を知っていただく機会を作りました。

訪れた方の中にはこれから作業療法士になろうと考えている方や、片麻痺になったがリハビリを頑張り趣味のドライブまでできるようになった方、継続してリハビリを受けられる施設を探している方など多くのご相談や体験談などをいただき、助言や提案をすることができました。

また、今回は初の試みとして作業療法士の認知度や需要などに関するアンケートを実施しました。リハビリに関す

る催し物であったため作業療法士の認知度は高い傾向でしたが、その仕事内容の認識は曖昧なものであることがわかりました。

こうして寄せられた、相談や意見、情報を今後の広報活動に活かしていこうと考えております。

(文責：広報部対外広報班 水野)





ちょっと一杯 どうですか？

No. 3 『ホドホドの適度』



『おじちゃん』って近所の子供たちに呼ばれている私も、自宅近くの病院に勤務する作業療法士。病院では、誰から『〇〇先生』と呼ばれている。

ふと、ネオン街に繰り出し一人道行く人を眺める。作業療法士としての視野を広げる鍛錬の一つ。それぞれの歩く姿がその時間を背負っているのがいい・・・ちょっとした小説の序章。街のネオンが闇に映える頃、ヒトキワ大きな声で同僚たちと気持ちよさそうに肩を組み、いま一つ呂律が回らない若者サラリーマンたちが闊歩している。平和だなあ、と思う。日々の色々な出来事を語り合う仲間がいるのはなんとも羨ましい。ちょっと勝手に、彼らが身に纏う現実の仮面を剥いでみる。理想と現実、愛と現実、夢と現実、それぞれの現実から解き放たれるほんの一瞬だ。社会人として目の前にある社会構造と向き合い、少しずつ順応するため（ある意味熟成するため）の仕込みの時期。仮面を纏う若者たちの歩く姿も、雄々しく見えるものだ。明日へ繋がるであろう“理想・愛・夢”に向かって歩き続けているかと思うと、なんだか微笑ましい。昔の自分はどうか、ふと振り返ってみたりする。自己内省の一つとして自身も改めて現実と向き合う。

歓迎会や送別会、〇〇会と称して、この業界よく飲み会があるのも事実。アルコールは学生時代から大歓迎。もちろん付き合い程度ではあります。お酒はひと肌で、要は適度。相手の人生の深みを知りたきゃ、お酒は飲まなくてもいい。相手の本心を聞きたければ、他にも手段は沢山ある。けど、私が学生の頃、臨床実習は必ず宴会で始まり、宴会でフィナーレを迎えていた記憶がある。翌日が症例発表でも指導者が「行くぞ!!」というと、返事は『ハイ』。やっと家に帰ってレジメを作りはじめ当日を迎える。発表の結果は不完全であっても指導者は「よくやった、今日はゆっくり休んでいいよ」と声をかけてくれた。昔の臨床実習は適度な息抜きを作ってくれたのかもしれない。勿論強要ではなく、同意の上ですることだが、正直、学校の授業よりも臨床実習が一番楽しかった。昔は私も学生さんとよく飲んだ。ちょこっとお酒が好きな学生さんだと、逆に指導者を誘ったりして、悩みや不安を打ち明ける。そんなお酒の席はいつも楽しく、学生ならではの本音も聞けて、明るる日、

職場に戻るとスッキリした顔で担当患者さんやリハスタッフと話せるようになっていたっけ。当然飲み会だけが実習の思い出ではないけれど、よく飲んだ実習地からは何故か就職のお誘いを受けることも多かった。就活なんて必要がなかった。

今思えば、リハビリの学校在学中は、学生同士や教員たちと作業療法の“理想・愛・夢”を夜遅くまで語り合った。はたまた行きつけの一杯飲み屋のカウンターで、いつも顔を合わせる数人の常連客からは「で、どんな仕事なの？それってリハビリと違うの？」と聞かれて、『リハビリにも、作業療法と理学療法があって、その中でも作業療法の歴史は長く、世界が求める最高の医療で、多くの可能性がある職種なのです。皆さんがこうして幸せにカウンターでお酒が飲めるのも、毎日ここに足を運んで来ようとする気持ちも、色々な側面で生活そのものを支えるリハビリが作業療法。ま、一言では言い尽くせないくらい奥が深いのであ〜る』とかなんとか。今の現役 OT さんからは笑われるような話だが、生意気に演じてみたら「エライ！いつまでもお酒が飲める生活を支えるリハビリか！そんなリハビリがあるのか！よくわかんないけど凄いな。マスター！俺の奢りでいいから、一杯出してやって！将来のえーっと、何だっけ、作業なんかにか、まいいや、とにかく乾杯しよう！カンパ〜い!!」と、いつも笑いが絶えなかった。今は時代も変わり、学生と飲むのは難しくなってきたようだ。学生達の本音を聞く場・語る場は違う形式となったのだろうか。これからも作業療法士になる学生たちの“理想・愛・夢”を、ホドホドに語り合える場があるといいけど…。

作業療法は、“その人がその人らしく生きるため”の医学であれば、学生も教員も一般も患者も、みんなで語り合える場がもっとあるといいと思う。ホドホドの適度なスタイルだね。

今回も登場した“おじちゃん”。OT を一生涯の仕事と決意し、長い OT の歴史と共に奮闘している“おじちゃん”です。あくまでもおじちゃん視点での作業療法学を織り交ぜた連載コラムです。面白エピソード満載です。次回もお楽しみに。

各部からの報告

教育部

県士会ウェブサイトから
質問ができます！

連載「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」は生涯教育制度関連の情報を毎号少しずつお伝えしています。今号は申し込み受付中の研修会（詳細は先月号ニュースチラシ、県士会ウェブサイトにてご確認ください）と事例検討会の形で実施する「事例報告」・「事例検討」、現職者選択研修（発達障害領域）についてお知らせします。同封チラシに詳細があります。

1. 現職者共通研修

10月8日（日）「作業療法生涯教育概論」、「作業療法の可能性」、「実践のための作業療法研究」

11月5日（日）「作業療法における協業・後輩育成」、「職業倫理」、「保健・医療・福祉と地域支援」、「日本と世界の作業療法の動向」

12月3日（日）「事例報告と事例研究」

来年3月11日（日）「事例報告」、「事例検討」

※現職者共通研修の「事例報告と事例研究」、「事例報告」、「事例検討」の3テーマに関して同封チラシにご案内を掲載しましたので、今から準備を進めてください。

2. 現職者選択研修

11月19日（日）「MTDLP基礎研修」

来年2月11日（日）「発達障害領域」（内容の詳細は検討中、次号、ウェブサイトにてご報告します）

3. 事例報告登録制度に関する研修会

12月3日（日）

※当日開催の現職者共通研修の後に開催します。現職者共通研修と合わせてご参加ください。

※神奈川県士会員無料！（他県士会員1000円）。2ポイント付与！

※現職者共通研修とは別の研修会となりますので、申し込みは別々になります。

生涯教育制度に関してご不明の点はご連絡ください。
県士会ウェブサイトからもご質問ができます。
教育部 奥原孝幸（神奈川県立保健福祉大学）
045-828-2738, kyoiku@kana-ot.jp

地域リハビリテーション部

【地域リハ部主催 研修会日程】

リハビリテーション人材育成研修会 介護予防・日常生活支援総合事業編 ～知ってみよう！地域における作業療法の役割～ プログラム

①地域支援事業とは、介護予防・日常生活総合支援事業の概要

②行政の立場からみた介護予防事業の捉え方について

③横浜市や各市区町村における地域課題、実施事業の紹介

日 時：2017年10月8日（日） 10：00～16：30

会 場：ウィリング横浜

受講料：無料

第7回 多職種精神保健福祉セミナー （共催：神奈川県精神保健福祉協会）

内 容：ストレングスモデルに基づく研修で、「リカバリー」や「ストレングスアセスメント」について学習する。講義やグループワークを通し、利用者の見方、関わり方など各々の業務での課題や気づきを促し、支援の向上を図る。

日 時：2017年11月25日（土）10：00～16：30

会 場：横浜市社会福祉センター

受講料：1,500円

地域リハビリテーション部

神奈川県訪問 リハビリテーション実務者 研修会2017開催報告

7月8日・9日の2日間、横浜リハビリテーション専門学校で神奈川県訪問リハビリテーション実務者研修会2017が開催されました。本研修会は毎年この時期に開催されておりますが、今回は『社会資源』と『排泄障害』の2つのテーマに焦点が当てられ、講義やディスカッション、ワークショップが行なわれました。参加者は県内の作業療法士・理学療法士・言語聴覚士合計91名（内OT42名）で、訪問リハに従事している方だけでなく病院勤務の方も多く受講されておりました。年々、作業療法士の参加者が多くなっていることから、在宅リハ分野での作業療法士の活躍や期待がうかがえてくる2日間でした。



〈参加者から〉今回、排泄障害がテーマということから、訪問リハビリ業務ではなく、老健に勤めていますが研修会に参加させていただきました。老健のご利用者様にも排便コントロールが上手くいかずに悩まれている方は多くいらっしゃると思います。研修会では、解剖学や排便のメカニズムという基礎内容から現在の排便治療の動向等、新しい情報までわかりやすくご講義頂きました。また、紙おむつやパンツの選び方、排便に有効な食物・運動・リラクゼーションまで臨床現場で直ぐに反映出来る内容も多く学ぶ事が出来ました。排便に関する内容は勿論の事、他職種の方が作業療法士に何を求めているか。チームの中で作業療法士はどのような役割を担っているのか。という貴重なご意見も含めて何う事が出来ました。一つのテーマを色々な方がご講義下さいましたが、皆さん『利用者様ファースト』でした。ご利用者様・ご家族様の想いを大切に、全講義を通してチームアプローチの重要性を再認識させて頂きました。

〈参加者から〉私が担当している利用者様の中でも便秘・下痢で悩んでいる方が多く、今回のテーマはとても興味深く勉強になる内容でした。各分野の先生方の専門的なお話を聞いて、運動以外の視点からもアドバイスが出来るようにアプローチの視野を広げて考えていこうと思いました。すぐ実践できそうな内容ですごく参考になりました。

神奈川県訪問リハビリテーション学術集会 事前登録開始

開催日時：2018年1月21日（日）10：00～16：00

開催場所：横浜市社会福祉センター 4Fホール

事前参加登録：2017年9月1日（金）～
2017年12月31日（日）

定員：300名

参加費：神奈川県作業療法士会 会員 ¥3,000
その他 会員外 ¥6,000

引き続き進捗状況を広報誌またはWEBの方で紹介できればと思っています。

学術集会HP：<https://kana-houmon-rehagakai.jimdo.com/>



地域ケア会議や介護予防事業に参加している方いませんか

各市町村で総合事業に取り組むが本格化してきています。会員の皆様も地域事業に関わる機会が増えてきますので会員の皆様からも情報を得ながら県士会の事業も進めていければと考えています。ぜひ、会員皆様からも作業療法士が関わっている地域事業がありましたら情報提供をいただければと思います。地域リハ部だけでなく県士会全体で情報共有していければと思いますのでご協力の方をよろしくお願いします。

ご意見や情報がありましたら下記のメールアドレスまでご連絡をいただければと思います。

【問い合わせ】 地域リハビリテーション部

Eメール：chiikireha@kana-ot.jp

いま、精神障がい者スポーツが熱い！ in かながわ

神奈川県精神障害者スポーツ大会実行委員 川口 敬之 (北里大学)

「パキン！パキン！」

静かな体育館で小気味良い音が鳴り響く中、私は「すごい！」と息を飲みながら卓球大会決勝戦を観戦していました。

神奈川県の精神障がい者スポーツは、昨年大きく発展しました。それまではバレーボール競技会1種目のみの開催でしたが、卓球とボウリングを加えて3種目のスポーツ大会が開催されることになったのです。

精神障がい者のバレーボールは、2008年より全国障害者スポーツ大会の正式種目として全国大会が開催されるようになり、神奈川県では各地域の代表チームを選出するための予選会として「神奈川県精神障害者バレーボール競技会」が毎年行われています。また、卓球とボウリングは全国大会こそありませんが、今後の障がい者スポーツ競技の動向を見据えて、そしてスポーツ人口の裾野を広げるためには団体競技だけでなく個人競技も必要ということで、神奈川県主催の精神障がい者スポーツ大会として昨年度から開催されるようになりました。

作業療法においてもスポーツをリハビリテーションの手段として行うことがあります。誰もが気軽に行うレクリエーションとしての生涯スポーツから、自己実現のための競技スポーツまで、スポーツがもつ意味はとて幅広いものです。神奈川県の精神障がい者スポーツの発展は、精神障がい者の希望を実現できる可能性をさらに広げる場や機会として、その意義は大きいと思います。

今後もみなさんに精神障がい者スポーツに注目していただき、対象者の方々に3種目の大会や、選手として出場できることについて周知していただきたいと思います。ぜひ一度大会に足を運んでください。選手たちの凜とした表情に、きっと感動すると思います。

参加者募集!

卓球競技会 体験教室同時開催!
平成29年9月22日(金)
申込締切 平成29年8月22日(火)
寒川総合体育館

バレーボール競技会
平成29年11月17日(金)
申込締切 平成29年9月17日(日)
大和スポーツセンター

ボウリング競技会
平成29年12月20日(水)
申込締切 平成29年11月20日(月)
湘南とうきゅうボウル

参加資格
神奈川県内に在住、在勤、在学の平成29年4月1日現在13歳以上の者で、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる者。

主催 神奈川県
申込方法
所定の申込用紙に記入のうえ、下記申込先へFAX又は郵送にて期日までにお申し込みください。
申込用紙はホームページよりダウンロードできます。
<http://kanagawa-kenshinren.or.jp/>
お問合せ・申込先
公益財団法人神奈川県身体障害者連合会
〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
TEL.045-311-8744
FAX.045-316-6860

平成29年度 神奈川県精神障害者スポーツ大会

みんなでスポーツはじめてようか!

大会情報

神奈川県ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535312/>

参加申し込み

神奈川県障害者社会参加推進センターホームページ

http://kanagawa-kenshinren.or.jp/works01_07.htm

医療法人社団 清伸会 ふじの温泉病院 老人施設なごみの里

当法人は温泉が湧出する自然豊かな環境にあります。
現在 16 名の O T が活躍しています。今春卒業者も歓迎します。

募集人員：若干名
施設概要：病院 472 床（精神科 256 床・内科 216 床）、
老人保健施設 120 床
分野：老年期障害・精神障害及び身体障害
給与：月給 291,170 円（初任給）～
待遇：賞与年 2 回、社会保険完備、交通費支給、退職金
制度、5 年 10 年勤続表彰海外旅行、保育所完備
その他：学会・研修会出張奨励金制度
勤務時間：9：00～17：00（実働 7 時間）
休日：4 週 6 休、夏季・年末年始 その他、年間 100 日、
有給休暇（即 20 日）
交通：J R 中央線藤野駅より専用シャトルバス 15 分
応募：電話連絡の上履歴書持参（郵送可）下さい。
施設見学も随時受け付けております。お気軽に
お問合下さい。

問い合わせ先

〒252-0186 相模原市緑区牧野 8147-2
TEL：042-689-2321（代）担当/人事
Email：j-yamamoto@fujino-hp.or.jp
URL：http://www.fujino-hp.or.jp

求人案内

国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院 総務課

募集人員：常勤 1 名
待遇：当院規程により優遇、経験年数加算、昇給年 1 回、
賞与年 2 回、通勤手当、住居手当、扶養手当、
福利厚生：各種社会保険完備
勤務時間：8：30～17：15
休日：4 週 8 休、年末年始、有給休暇、特別休暇等
交通：京浜急行線「追浜駅」徒歩 7 分
応募方法：電話連絡の上、履歴書（写真貼付）、免許証の写
しを下記宛に郵送願います。
※病院見学随時対応いたします。

問い合わせ先

〒236-0037 横浜市金沢区六浦東 1-21-1
TEL：045-782-2101
Email：syokuin@minamikyousai.jp
URL：http://www.minamikyousai.jp

研修会案内

ポジショニング R.E.D. セミナー 理論編×実技編

主催：日本ユニバーサル リハビリテーション協会
日時：2017 年 10 月 15 日（日）
場所：八王子市芸術文化会館いちょうホール
URL：http://universalreha.com/

療法士がスポーツの現場で勝負するには？ スポーツに 必要な股関節機能と、その引き出し方

主催：Knowledge Link（ナレッジリンク）
日時：10 月 22 日（日）
場所：八洲学園大学
URL：https://www.knowledgelinkreha.com

終末期・緩和ケア作業療法研究会 年次研修会

主催：終末期・緩和ケア作業療法研究会
日時：2017 年 10 月 28 日（土）、10 月 29 日（日）
場所：熊本保健科学大学
URL：http://www.kanwaot.net

車椅子設計採寸技術と車椅子メンテナンスセミナー

主催：日本ユニバーサル リハビリテーション協会
日時：2017 年 10 月 29 日（日）10：00～16：30
場所：八王子市芸術文化会館いちょうホール
URL：http://universalreha.com/

苦手を克服!! 運動器リハセミナー 股関節マスターコース

主催：Knowledge Link（ナレッジリンク）
日時：11 月 12 日（日）
場所：八洲学園大学
URL：https://www.knowledgelinkreha.com

第 46 回三浦半島作業療法研究会

主催：三浦半島作業療法研究会
日時：2017 年 11 月 17 日（金）
場所：神奈川県立保健福祉大学
URL：http://miuraot.kenkyuukai.jp/event/

第 47 回日本臨床神経生理学会学術大会のお知らせ

主催：東海大学医学部リハビリテーション科
日時：2017 年 11 月 29 日（水）～12 月 1 日（金）
場所：パシフィコ横浜会議センター
URL：http://www.pco-prime.com/jscn47/index.html

事務局からのお願い

休会される方

来年度に休会予定の方は、前年の**12月31日**(末日消印有効)までに①『**休会届**』と②『**証明書**』を郵送でご提出願います。

FAX 不可

退会される方

年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『**退会届**』を①郵送又は②FAXにてご提出願います。

上記日必着

届出内容を変更される方

住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『**変更届**』を①郵送又は②FAXにてご提出願います。

随時受付

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ**公式ウェブサイト**の**INDEX**より、ダウンロード可能です。なお期日までにご提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。

会員、本会関係者の皆様へ

この度、2017年5月末発行の185号と7月末発行の186号の巻頭における当会の英語表記が誤っておりました。正しくはKanagawa Association of Occupational Therapists (KAOT) と表記すべきところ、Kanagawa occupational therapist society と表記しておりました。

ここに訂正をお知らせ致しますとともに、心よりお詫び申し上げます。今後このような誤りが発生しないよう、発行関係者一同注意および確認の対策を講じて参る所存です。会員の皆様におかれましては今後とも変わらぬご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

広報部 ニュース班 一同

編集後記

皆さまいつも県士会ニュースを見て下さってありがとうございます。はやいもので上半期が終わりましたね!! 秋といえば食欲の秋、読書の秋など盛り多き時期ですね。下半期も皆さまにとって盛り多き時期になりますように!! (REX.h)



一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース (187号)2017年10月発行(年6回発行)

発行責任者 錠内 広之
編集責任者 神保 武則
編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)
山岡 洸(新戸塚病院) / 佐藤 愛(新戸塚病院)
安田 優子(横浜旭中央総合病院) / 丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)
井部 賢吾(北里大学東病院) / 松井洋鷹(澁野辺総合病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所
事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号
TEL/FAX : 045-663-5997
月火水木金 10:00~15:00
メールアドレス: jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

<http://kana-ot.jp> → 作業療法 神奈川 検索

Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>
Twitter <https://twitter.com/kaotwebkan>

